■アフター5 スター賞（SⅢ）アラカルト（過去全 31 回の分析）

※第 1 回（平成 6 年）から第 8 回（平成 13 年）までは 1,800m で実施
※第 9 回（平成 14 年）は 1,790m で実施
※第 10 回（平成 15 年）は 1,190m で実施
※第 14 回（平成 19 年）は馬インフルエンザの影響で施行日を 9 月 5 日から 11 月 30 日に延期
※記録は令和 7 年 8 月 20 日時点

■1 番人気から 3 番人気までの馬は 3 着内率が概ね同水準

単勝 1 番人気馬は 13 勝、2 着 4 回、3 着 1 回で、3 着内率が 58.1%、単勝 2 番人気馬は 5 勝、2 着 9 回、3 着 5 回で、3 着内率が 61.3%、単勝 3 番人気馬は 4 勝、2 着 4 回、3 着 9 回で、3 着内率が 54.8%となっている。上位人気グループの馬は同等に評価して良さそうだ。

■3 番人気以内の馬が 1～3 着を占めた例は 4 回

過去 31 回のうち 22 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 13 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 4 回ある。

■優勝馬の年齢は 3 歳から 9 歳まで多岐に渡る

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 6 勝、4 歳が 3 勝、5 歳が 8 勝、6 歳が 5 勝、7 歳が 3 勝、8 歳が 4 勝、9 歳が 2 勝となっている。幅広い年齢層から優勝馬が出ているレースと言って良いだろう。

■優勝馬の過半数は大井所属

所属別の勝利数を見ると、浦和が 3 勝、船橋が 9 勝、大井が 17 勝、川崎が 2 勝となっている。1 着となった回数を基準とするならば、地元の大井所属馬が優勢だ。

■牝馬は 1 勝、外国産馬は 3 勝

牝馬の優勝例は第 20 回（平成 25 年）のハードデイズナイトのみである。また、外国産馬の優勝例は第 12 回（平成 17 年）のロッキーアピール、第 16 回（平成 21 年）のケイアイジンジン、第 23 回（平成 28 年）のルックスザットキルと、これまでに 3 回ある。

■ハタノアドニスとキタサンミカヅキが“連覇”を達成

複数回の優勝例がある馬は、第 10 回（平成 15 年）と第 11 回（平成 16 年）を制したハタノアドニス、第 24 回（平成 29 年）、第 25 回（平成 30 年）、第 26 回（令和元年）を制したキタサンミカヅキと、現在のところ 2 頭いる。ハタノアドニスは 2 年連続の、キタサンミカヅキは 3 年連続の優勝だ。

■騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5 勝の内田博幸騎手が単独トップ。2 勝の石崎駿騎手、坂井英光騎手、的場文男騎手、森泰斗騎手、吉原寛人騎手が 2 位タイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3 勝の川島正行調教師、小久保智調教師、佐藤賢二調教師、高橋三郎調教師、福永二三雄調教師がトップタイ。栗田裕光調教師が 2 勝で単独 6 位となっている。

■優勝馬の大半は馬番が 1～8 番

枠番別の勝利数を見ると、3 枠（7 勝）が単独トップ。4 枠と 6 枠（各 5 勝）が 2 位タイ、1 枠と 5 枠（各 4 勝）が 4 位タイとなっている。また、馬番別の勝利数を見ると、6 番（6 勝）が単独トップ。1 番、2 番、3 番、7 番、8 番（各 3 勝）が 2 位タイである。なお、11 番、14 番、15 番は未だ優勝例がなく、9 番、10 番、13 番、16 番もそれぞれ 1 勝どまりだ。

＜伊吹雅也＞